

平成29年度 施策評価シート

基本目標	IV	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	470	子どもたちに知・徳・体のバランスのとれた教育を行う
施策	474	家庭の教育力向上と、地域で子どもを育てるしくみをつくる
施策の目標	学校・家庭・地域が連携し、地域全体で子どもと家庭を見守り、育てています。子どもたちは、家庭教育や地域の人々との交流、さまざまな体験活動を通して、豊かな人間性や社会性を身につけています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域での子どもの健全育成活動に参加している」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					18.0					20.0
実績	16.5									
指標名	「家庭教育を実践できている」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					77.0					80.0
実績	74.8									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
すみだ少年少女合唱団は30年を超える活動により、一定の知名度を得ている。また、幅広い年齢の子どもたちを対象とした青少年の健全育成事業として効果的である。	H28	4,512
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	幅広い年齢の子どもたちを対象とした青少年育成事業として効果的であるが、より柔軟な運営のため民間事業者等への委託について検討が必要である。

4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
音楽都市すみだの理念に基づく音楽文化の振興と子どもたちの健全育成の両面を併せ持つ事業として有効であるが、より柔軟な運営のため民間事業者への委託等を検討する。	
【今後の具体的な方針】	
合唱を通じて子どもたちの情操を養うとともに、集団行動による自主性・社会性の向上を目指す事業として30年を超える実績を持つ。今後も団員数に維持・確保に努め継続して実施する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	少年少女合唱団	4,512	児童・生徒が豊かな情操を養い、自主性や協調性を身に付け、将来的に音楽都市すみだの文化的まちづくりに寄与する人材へと育てる。地域の学校で練習し、地域のイベントに出演することで、地域への愛着・理解を深める。	90	→	現状維持
				89		平成28年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	474	家庭の教育力向上と、地域で子どもを育てるしくみをつくる	部内優先順位					
事務事業	少年少女合唱団					1		
事業概要	社会教育法第5条に基づき、子どもたちの豊かな情操と自主性、社会性の向上を目指して昭和60年6月に結成。以後、通常練習と定期演奏会の他、墨田区内を中心に演奏活動を行っている。					主管課・係（担当）		
						スポーツ・学習課 生涯学習担当		
						5608-6309		
施策への 関 連 性	児童・生徒が豊かな情操を養い、自主性や協調性を身に付け、将来的に音楽都市すみだの文化的まちづくりに寄与する人材へと育てる。地域の学校で練習し、地域のイベントに出演することで、地域への愛着・理解を深める。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 30年を超える活動の中で知名度があり、また家庭の経済事情に関係なく幅広い年齢の子どもたちを対象にした事業として青少年の健全育成には効果的。民間事業者等への委託により、より柔軟な運営・演奏会出演等が期待できる可能性がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	公演（定期演奏会含む）出演回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基 準 年(H28)	H29	H30	H31	
		24	H37	目 標	18	18	18	20
				実 績	16			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	20	20	22	22	22	24
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由 指標によって合唱団の活動状況が明確になるほか、公演主催者からの依頼による出演が多いことから、合唱団の知名度の向上を示す指標にもなる。目標値は、練習回数（年55回）を踏まえて設定。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	在籍団員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年(H28)	H29	H30	H31	
120		H36	目 標	90	90	95	100	
			実 績	89				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標	100	105	110	115	120	120		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由 まなびプランを踏まえ、活動による知名度向上の反映として本指標を設定する。なお今後、追跡調査により指標を「卒団後合唱団等参加者数」と変更し、音楽都市のまちづくりに寄与する人材の育成指標とすることも検討する。								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	4,512							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 大部分が指導者への謝礼。その他会場使用料、事務補助者賃金等。（29年度は制服更新費用）				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
知名度があり、家庭の経済事情に関係なく幅広い年齢の子どもたちを対象にした事業として青少年の健全育成には効果的。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	成果指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
地域のイベントへの出演依頼も増えており、地域への還元ができています。また卒団生による合唱団も活動を続けており、音楽のまちづくりに係る人材育成に寄与しているといえる。		3	3	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
外部指導者による管理が行き届いている。臨時職員、指導補助者（卒団生）の業務内容について、精査が必要。					
中間・最終年度の講評	音楽都市すみだの理念に基づく音楽文化の振興と子どもたちの異学年交流、集団活動を通じた健全育成の両面を併せ持つ事業として、有効な事業である。				
今後の方向性	合唱を通じて子供たちの情操を養うとともに、集団行動を行うことにより、自主性・社会性の向上を目指す本事業は30年を超える事業であり、団員数の維持・確保に努めつつ、今後も継続して実施する。				